

平成 29 年度 自己評価表

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも「誠実」に対応でき、他者と「協働」して物事に取り組み、夢に向かって「果敢」に挑戦する人間を育成する。</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 キャリア教育を推進し、自らの将来について主体的に考える力を養う。</li> <li>2 部活動を振興し、健康で心身のバランスのとれた人間の育成に努める。</li> <li>3 多様な生徒に対して、一人ひとりが大切にされていると実感させる。</li> <li>4 生徒の主体的な学びに見出し、解決する力、伝える力を身につけさせる。</li> <li>5 地域と連携した学校づくりに向けて、一層の充実に努める。</li> </ol>
---------------------------	--	----------------------	---

年 度 当 初			評 価 結 果 (10)月				
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1	進路指導の充実	<p>○ここ5年間進路実現100%が続いており、指導方法が確立・定着しつつあるが、より質の高い進路実現を追究していくべく、第1志望を実現させる果敢な指導が求められる。</p>	<p>○適切な時期に進路学習が行われ、進路実現に結びついている。 ○進路実現100%、また、第1志望での合格内定率が90%達成。 ○2年次末までの進路希望未決定者10%以下。</p>	<p>○進路面談や進路学習を学年との連携により強化し、3年間を見通した系統的な指導方法へ深化させる。 ○全職員による懇切丁寧な面接等の実施。 ○進学希望者への指導内容を研究し、指導体制を確立する。</p>	<p>約7割から8割の生徒・保護者が、本校の進路学習が役立っている・充実していると感じている。また8割以上の教員が、生徒個々の進路実現に向けて適切な時期に適切な内容で進路指導が行われており、進路実現のための効果的な指導が行われていると感じている。 学校の指導体制は、進学対策補習の強化、地元公立大学合格プロジェクト等の実施により、生徒の目指す第1志望の進路実現に向かっている。</p>	C	<p>生徒に対しては更に充実した取組を行い、同時に保護者の意識を高める方策を工夫する。 進路実現の結果はこれからであり、就職・進学指導とも指導の意識を高めて実施していく。</p>
2	生徒指導の充実	<p>○服装頭髪再検査者数は前年に比べやや増加傾向である。再検査者数は1クラス平均10人である。</p>	<p>○挨拶、返事、服装等のマナーと基本的な生活習慣が身に付いており規範意識を持っている。 ○再検査者数は1クラス平均5人以内になっている。</p>	<p>○全校朝会や服装頭髪検査の実施による校則の徹底指導と、全職員による日常的なきめ細やかな指導を充実させる。 ○家庭との連携を密にとり、生活環境を整える。</p>	<p>挨拶は学年が上がるにつれ良くなっている。服装、その他校則やマナーを守ることについては、一部の生徒に乱れがあると感じられる。頭髪服装再検査者数は、クラス平均5人以内は達成していない。</p>	C	<p>○頭髪服装検査に毎回不合格である生徒の指導を徹底する。</p>
	豊かな人間関係づくりの推進	<p>○メール・LINE等による友人とのやり取りで小さなトラブルが起き、不安感等を感じる生徒がいる。</p>	<p>○携帯電話等に頼らず自分で考え、直接話をすることの重要性を知っている。 ○携帯電話等の使用マナーが身についている。</p>	<p>○生徒会主催の情報モラル研修会等の取組を充実させる。 ○岩美高生としての自覚や誇りを持てるよう学校祭その他の行事を企画する。</p>	<p>5月に情報モラル講演会を実施。スマホ等の危険性について、リアルタイムな情報が得られたことは非常に有意義であった。また、事前におこなったアンケート結果では、本校生徒のSNS利用の実態は良くない状態であるとのことであった。評価アンケートでは、90%以上の生徒が情報通信機器のルール・マナーに気を付けており、直接相手と話すことを大切にしていると答えている。</p>	B	<p>生活満足度アンケートやいじめに関するアンケートの結果等も生かしながら、継続的に指導にあたる。</p>
	生徒会活動の充実	<p>○部活動に所属してない生徒が若干名となっている。全員加入に向けての指導が必要である。</p>	<p>○部活動全員加入を継続し部活動をとおして忍耐力や礼儀の向上につながっている。 ○生徒の自主的なボランティア活動や美化活動が行われている。</p>	<p>○部活動加入指導を徹底する。 ○生徒主体のボランティア活動や美化活動を推進する。</p>	<p>部活動は9月時点で異動が生じた生徒がおり、全員加入に向け指導中である。評価アンケートの「部活動は社会人としての力(礼儀やマナー、忍耐力、人と関わる力など)を身につけるのにも役立っていると思う」という項目が大きく下がっているのが気になる。充実した部活動になるよう、教員側も手を入れる必要がある。</p>	C	<p>部活動未加入者を把握し、全員加入・活発な活動を徹底する。</p>
3	保健・人権教育の充実	<p>○生活満足度アンケート結果では、自分に自信が持てない傾向にあり、生徒の自己肯定感を高める必要がある。 ○授業および教育環境のユニバーサルデザイン(UD化)が進みつつある。</p>	<p>○生徒にとって学校が居心地のよい場所であり、大切にされていると実感できる。 ○学校評価生徒アンケートで、UD化に関する質問への肯定回答が80%以上を達成する。</p>	<p>○生徒の自己理解・他者理解を促し、自己肯定感が高まるような取組を工夫する。 ○岩美高版UD等チェックリスト(仮称)を作成・活用し、UD化や効果的な指導・支援を進める。</p>	<p>○担任や教育相談・特別支援教育担当等による個人面談、個別学習指導やソーシャルスキルトレーニング、1学年には仲間づくりのための構成的グループエンカウンター等を適宜実施し、生徒に応じたサポートに取り組んでいる。学校に行きたくないとしばしば感じている生徒は約11%いるものの、不登校生徒はいない。 ○評価アンケートでは、83.3%の生徒が「授業に集中しやすい環境」と回答しているが、「授業のねらいと板書内容が明確」は約74%、「絵や写真等を用いてわかりやすい」は約60%と目標値には達していない。一方保護者の約88%が「一人ひとりを大切にしたい指導やわかりやすい授業が行われている」と回答している。</p>	C	<p>○各種アンケートや日々の生徒観察を通して、生徒の変化を敏感にキャッチし適切にサポートする。 ○生徒の自己肯定感を高めるヒントについて、教職員に向けた情報を発信していく。 ○岩美高版UDチェックリストを用い教職員各自の取組をチェックする。</p>

平成 29 年度 自己評価表

鳥取県立岩美高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも「誠実」に対応でき、他者と「協働」して物事に取り組み、夢に向かって「果敢」に挑戦する人間を育成する。	今年度の 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 キャリア教育を推進し、自らの将来について主体的に考える力を養う。</li> <li>2 部活動を振興し、健康で心身のバランスのとれた人間の育成に努める。</li> <li>3 多様な生徒に対して、一人ひとりが大切にされると実感させる。</li> <li>4 生徒の主体的な学びに喜びを見出し、解決する力、伝える力を身につけさせる。</li> <li>5 地域と連携した学校づくりに向けて、一層の充実に努める。</li> </ol>
-------------------	---	--------------	--

年 度 当 初		評 価 結 果 (10)月					
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
4 学 習 指 導 の 充 実	○基礎学力の向上	○イワッツ検定全教科の初級合格率は1年末で18%、2年末71%であった。3年末100%は達成している。 ○家庭学習時間は平日で1日平均65分、30分未満の者が31%である。家庭学習が習慣化する必要がある。	○イワッツ検定全教科の初級合格者を1年末で40%、2年末で70%、3年末で100%を達成する。 ○平日において1日1時間以上の家庭学習が習慣化され、特に、30分未満の者が30%未満を達成する。	○イワッツ検定合格率が向上するよう、教科と学年団で実状を共有し連携して補習等に取組む。 ○家庭学習時間が少ない生徒に対して学年団で面談指導を実施する。	○イワッツ検定は、6月からの3年放課後補習や夏季休業中の1・2年基礎力強化補習により、夏休み明け時点での全教科初級合格率は、3年が96%、2年が38%であり、3年生は全員合格まであと3人となっている。他方で、リスタート学習の取組み等職員間の連携については、十分に図られていない傾向にある。 ○直近の家庭学習時間の平均は、平常時51分、考查期間146分であり、平常時が30分未満の生徒は38%であった。平常時においては昨年より減少した。なお、保護者によるアンケート調査で「毎日1時間以上できている」に肯定的な評価は31%であった。	D	○夏季のイワッツ検定の合格状況を踏まえ、次回に向けて教科と学年団との連携について考察して取組んでいく。 ○「家庭生活調査」の事後指導等を継続的に実施していく。
	○学習指導の改善	○生徒の実態を踏まえた授業の工夫がなされているが、苦手意識がぬぐいきれず一層の学ぶ意欲が求められる。	○生徒が主体的に学ぶことに喜びを見出し、解決する力、伝える力が身につけている。	○教室のUD化を促進し、AI等の校内研修会、公開授業月間を実施し、他校の研究授業等への参観を行う。 ○全ての生徒に分かり易く、学ぶ意欲が向上する授業を研究し共有化を図る。	○年度当初に教室のUD化の共有を図ったが、授業に関する研修会等の機会の設定がなかったことにより、職員の授業と教育環境のUD化や授業の改善・工夫の実態は、昨年より10ポイント以上低下している。また、他校の公開授業へ参加した職員の割合は、40%程度に留まっている。 ○わかりやすく、生徒が主体的に学ぶ授業の実施に向けて、保健人権部と協力して取り組んでいるが、生徒の授業に対する観点評価は何れも昨年より低下し、特に「授業で絵や写真などが使われている」の設問の肯定的な評価が60%を割っている。授業アンケートについては、授業に対する生徒からの声により届きやすくなるよう内容を改善した。	C	○11月の公開授業月間の取組み内容の充実にを図る。 ○学校評価(中間)の結果を職員間で共有し、授業展開の工夫の転機を図る。 ○生徒に対して授業アンケートを実施する。
5 開 か れ た 学 校 づ く の 充 実	○地域と連携した学校づくりの推進	○研究開発学校の実践を継承する「イワッツ・ミッション」を開始した。 ○体育・福祉の授業や部活動で地域との交流が行われている。 ○「イワッツ・ミッション」を核として地域と連携した人材育成のしくみを確立させる必要がある。	○生徒が、地域と連携し地域に貢献する活動に意欲的に取り組んでいる。 ○感謝と支え合いの心を持って、地域に貢献していこうとする精神が育っている。	○研究開発学校の実践の蓄積を生かしつつ地域連携をより深められるよう「イワッツ・ミッション」を工夫する(活動内容の充実・授業時間数の確保・学校設定科目化の検討)。 ○校外での発表や他校との交流の機会を設ける(村岡高・鳥取中央育英高・室戸高・神大附属校・環境大等)	○第2学年でのイワッツ・ミッションの実施に向けて体制を整備している(活動内容の精査・班編成・協力大学生の確保等)。 ○イワッツ・ミッションで顕著な成果をあげた班の代表の生徒については、地域創造ハイスクールサミット(1月26日、鳥取中央育英高)に参加させることとしている。また、高知・室戸高の発表会(2月2日)にも参加させることにより、世界ジオパークに位置する本校と室戸高との新たな交流事業の嚆矢としたい。	B	○イワッツ・ミッションを充実させるよう活動を工夫する。 ○1年生のジオパーク学習の成果を生かした取組を検討・実施する。 ○イワッツ・ミッションの在り方を検討し、次年度に生かす。

評価基準 A: 十分達成 [100%] B: 概ね達成 [80%程度] C: 変化の兆し [60%程度] D: まだ不十分 [40%程度] E: 目標・方策の見直し [30%以下]